

音楽は、人生に 愛と豊かさを もたらすもの。

オーバード・ホール開館25周年記念

アンドレア・バッティストーニ指揮

東京フィルハーモニー交響楽団

Interview

東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者
アンドレア・バッティストーニ

イタリアの若きマエストロ、アンドレア・バッティストーニ。その知的で物静かな風貌は指揮台にあがると別人のように精悍になり、オーケストラから多彩なサウンドを引き出す。11月には強い絆で結ばれた東京フィルハーモニー交響楽団を率いてオーバード・ホールに初登場。バッティストーニの音楽はなぜ“面白い”のか？オペラを指揮するためにオーストラリアに滞在中のマエストロに話を聞いた。



— 今年1月と5月に来日されました。それぞれ2週間の隔離期間を経て東京フィルハーモニー交響楽団の演奏会を指揮しています。オーケストラとの再会はいかがでしたか？

昨年は来日が中止になり、1年ぶりに東京フィルのメンバーと再会した時には心から嬉しかったです。オーケストラも活動を中止していましたが、一緒に演奏する、一緒に音楽を作る方法を取り戻す作業が必要でした。5月には規模の大きな作品も演奏し、以前のレベルを取り戻したと思います。

— 富山で演奏する曲目について教えてください。

オーバード・ホールが開館25周年とのことで、祝祭的な意味を込めて前半にはイタリア・オペラの華やかな名曲を演奏します。ヴェルディの『運命の力』序曲は、音楽が素晴らしいだけでなく、この奇妙な時期を象徴する面があるかもしれません。“運命”はこんなにも予想がつかないのだと…。プッチーニの『マノン・レスコー』間奏曲はイタリア

アンドレア・バッティストーニ Andrea Battistoni

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、アレーナ・ディ・ヴェローナ、バイエルン国立歌劇場、マリインスク劇場、サンタ・チチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界的主要歌劇場、オーケストラと共に。日本コロムビア株式会社より東京フィルとのコンビでCDのリリースを継続中。著書に『マエストロ・バッティストーニの ぼくたちのクラシック音楽』(2017年・音楽之友社)。

の〈歌〉の美しさが凝縮されています。東京フィルの特徴の一つはよく歌うオーケストラであることで、その良さが出る曲だといえます。そしてロッシーニの『ウィリアム・テル』序曲はまさに音楽の花火のようです。祝典にふさわしいと思い選びました。

— 後半で演奏するのはチャイコフスキーの交響曲第5番です。チャイコフスキーの良さはどこにあると思いますか？

チャイコフスキーが常に聴衆に愛されてきたのは、彼の内面を音楽がとても大きな力で語っているからだと思います。中でも第5番はインスピレーションに溢れたメロディーがたくさんあり、聴く人の心に真っすぐに届く作品です。

— マエストロはチェロを学んだ後、オーケストラの魅力を発見して指揮者になられたそうですが転機はどうやって訪れたのですか？

劇的な変化が訪れたのは14歳の頃でした。それまではルーティーンで音楽を勉強していましたが、ある日の授業でオーケストラの一員として演奏したことにより、その魅力を発見したのです。それ以来、音楽が僕に直接語りかけてくるようになりました。その後、オーケストラの中では楽器奏者より指揮者の方がずっと楽しそうだなと思い始めて（笑）。幸運にもそれが自分の道となりました。

— 音楽を学ぶ若者に何かアドバイスはありますか？

言えることがあるとすれば、幅広いジャンルの芸術に触れるのが重要だということです。例えばピカソの展覧会に行って感動しなくとも、他の美術は好きかもしれない。誰にでもその人に響く芸術というのも必ずあります。全てを好きになる必要はありません。僕が「ブルームスは好きじゃない」と言うと皆に驚かれるのですが、価値を理解しても好きになれないものはあります。でも10年後はまた変わっているかもしれません。

— 時間と共に変化していく楽しみもありますね。芸術はそれを鑑賞する人もさまざまな出会いをもたらすと思います。私たちの生活に音楽はどのような役割を担っているのでしょうか？

音楽は人生に愛と豊かさをもたらすものだと思います。私たちを必ず待ってくれる避難所のようなものです。インスピレーションや力、そして美しさを与えてくれる。オフィスで大変なことがあった後で、家に帰って音楽を聴く。なにもクラシックに限りません。そこで日常を離れて別の世界に入ることができます。アートは時に純粋にエンターテインメントもあります。そして深遠なる芸術は私たちの魂をなぐさめ、私たちを考えさせます。

— マエストロは日本の地方都市で指揮をすることも多いですが、それぞれの土地柄を感じることはありますか？

新しい都市を訪れる必ず何か新しい発見があります。お客様の反応も町ごとに違います。日本でもっとも驚くのは各地に本当に素晴らしい



©上野隆文

らしいコンサートホールがあることです。オーバード・ホールは施設が整った美しいホールとのことなのでとても楽しめます。

— 富山のグルメもぜひ味わってください。新鮮な海の幸に恵まれていて、中でもシロエビは有名です！

それはぜひトライしたいです。やはり、その土地の食事が記憶に残ることは多いです。ある町で『蝶々夫人』を指揮した時には、そこで食べたカレーが一番の思い出になったことも（笑）。

— 最後にコンサートへの抱負をお聞かせください。

富山を初めて訪れるのが楽しみです。オーバード・ホールのお祝いのために東京フィルと最高の演奏をお届けします。昨年からの困難だった時期の後、音楽が皆さんに大きな喜びをもたらすよう願っています。

聞き手・文 井内美香（音楽ライター）

曲目

第1部 ヴェルディ：歌劇「運命の力」序曲
プッチーニ：歌劇「マノン・レスコー」間奏曲
ロッシーニ：歌劇「ウィリアム・テル」序曲

第2部 チャイコフスキー：交響曲第5番

公演情報

オーバード・ホール開館25周年記念
アンドレア・バッティストーニ指揮
東京フィルハーモニー交響楽団

- ◆日時：2021年11月6日（土）15:00開演
- ◆会場：オーバード・ホール
- ◆チケット：[全席指定・税込]
S席：8,000円 A席：6,000円 B席：4,000円 U-25：2,000円
※U-25：鑑賞時25歳以下対象。公演当日の空席よりお席をご用意します。
※未就学児入場不可。
- ◆チケット発売日：アスネット会員先行：8月7日（土）のみ
一般発売：8月15日（日）～
- ◆プレイガイド：アスネットカウンター
★チケットのお求めはP11「チケット購入方法」をご覧ください。

©上野隆文